



患者・家族の意思尊重のための院内体制

北里大学病院 移植医療支援室

北里大学病院



1971年 神奈川県相模原市に開院

医療圏：県北・県央地区～・東京都の一部

1972年 生体腎移植1例目(～2020年429例)

1973年 心停止後腎提供1例目(～2020年21例)

1975年 献腎移植1例目(～2020年165例)

2006年 移植医療支援室設置

2011年 **脳死下臓器提供1例目(～2020年5例)**

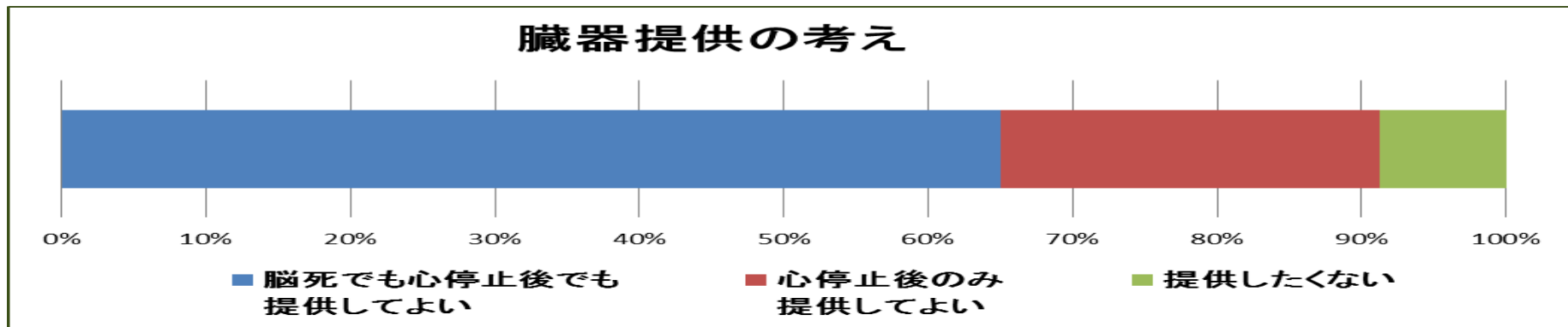
2014年 新病院開院 1,033床

設置趣旨

- 1.関係者間の情報交換・連携を強化し移植医療の発展と充実を図る
- 2.移植の基幹病院としての臓器・組織提供の介入および、
患者・家族の意思をいかなる体制の構築
- 3.移植医療に関わるデータベースの安全管理

悲嘆を抱えた家族に、臓器提供に関する思いを お尋ねすることは必要か？

「臓器提供の意思表示に関する意識調査」



2016年 日本臓器移植ネットワーク調べ



～救急終末期・臓器提供の現場～

- 診療科は多岐にわたり、**患者・家族背景が多様**
- 予期せぬ受傷や発症に**家族の混乱・動揺が強い中で代理意思決定**

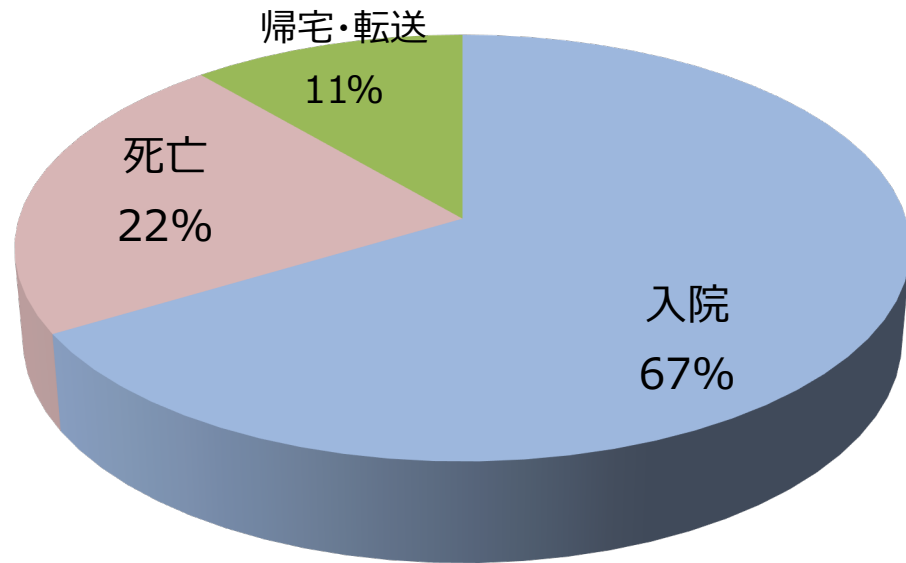


当院の三次救急の概要

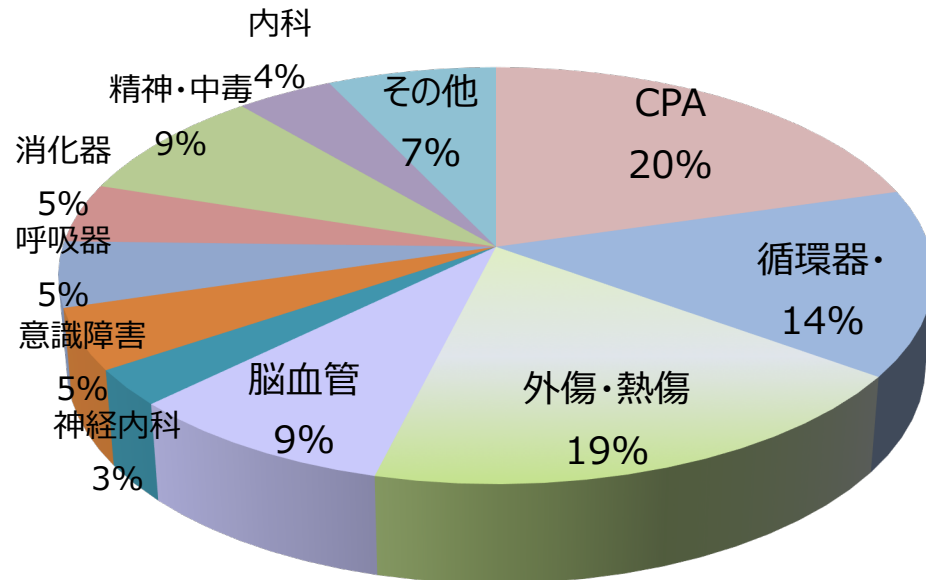
2018-2019

N=2586

搬送転帰



疾患概要



救命救急・災害医療センター (EICU 20床、救急病棟18床)

GICU 10床

周産母子成育医療センター (PICU 8床)

～救急終末期・臓器提供の現場～

- “提供したい・したくない”を考えるタイミングが“今”を家族は知らない。
- 精神的余裕がなく、臓器提供を自発的に思いつくことがない。



誰か(医療者)が、家族に情報提供しない限り

臓器提供の意思は表出しにくい



救命治療の現場で最初から終末期を意識していたら
全力で救命することはできない との現場の声・・・



患者・家族の意思を生かせる体制の構築

臓器提供意思の抽出(三次救急の場合)

三次救急外来調査票

ご確認させていただきたいこと

救急外来を受診される患者様、ご家族様へ

病院長

当院は、患者様の救命を第一として対応させていただいておりますが、同時に患者様やご家族様の意思・権利を守るために移植医療についてのお考えも確認させていただいております。以下の項目で該当する箇所にご記入いただき、外来または病棟窓口にお渡しください。

下記ご記入についてご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 患者様ご本人は臓器提供意思表示カードや腎アイバンク登録カード等をお持ちですか？



1. 持っている 2. 持っていない 3. わからない

2. または、患者様ご本人は運転免許証もしくは健康保険証に臓器提供意思表示シールを貼付されていますか？

1. 貼ってある 2. 貼っていない 3. わからない

3. 状況に応じて臓器・組織提供に関するお話を専門職員からお聞きになることを希望しますか？

1. 希望する 2. 希望しない 3. わからない

ご記入された方のご関係 _____ お名前 _____

※意思表示カード等をお持ちの方は、状況により記載内容をご確認させていただきます。

※意思表示カード等をお持ちでない方でもご家族の希望により、腎臓、眼球、組織（膵島、皮膚、心臓弁、血管、骨）の提供が法的に可能です。

※ご不明な点がございましたらスタッフにお申し出ください。

目的

1. 本人・家族の**意思抽出** (リスク管理・潜在的意思)
2. 本人・家族の**意思尊重**
3. 意向に沿った**職員対応**・**院内体制準備**



三次救急搬送 事務手続き時
患者の家族全てに配布

配布率80%

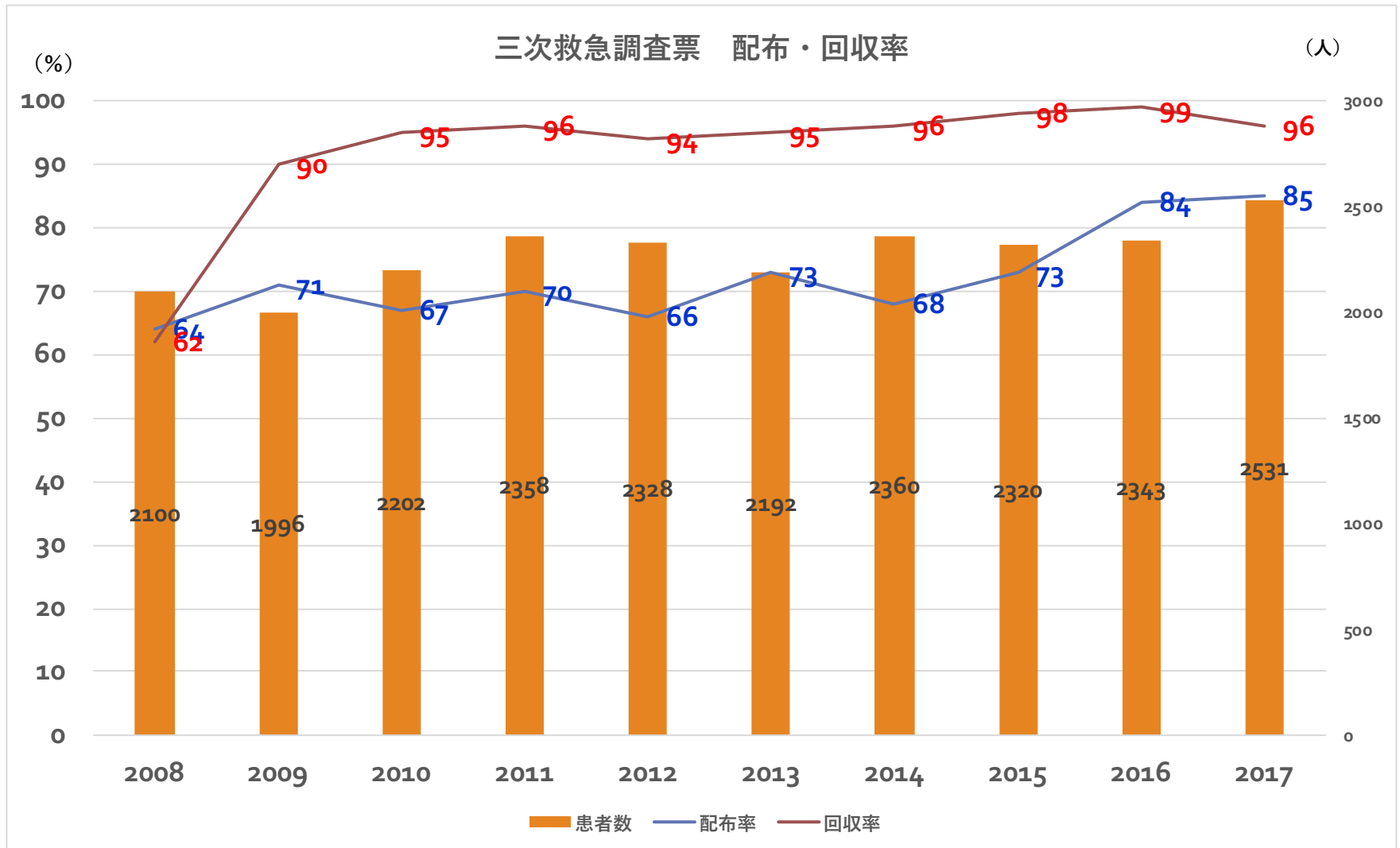
回収率98%

記入・提出は任意/外来・病棟で回収

回収した調査票は電子カルテ内保存

「**意思表示カードあり**」or「**説明希望あり**」
院内Co or 夜間・休日看護管理者へ連絡

救急外来での調査票配布・回収率

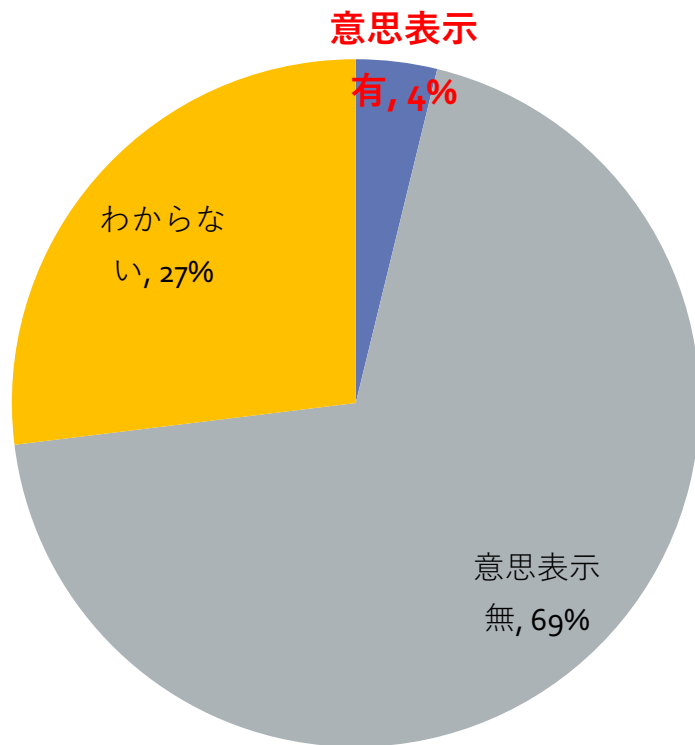


三次救急外来調査票 回答の実際

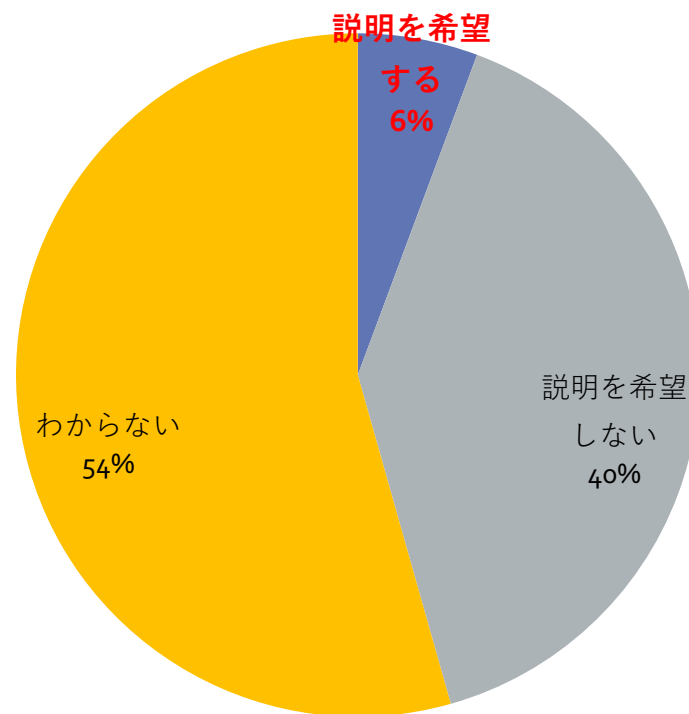
0代-90代の男女2,093名

2014.4-2015.3

家族が回答した本人の意思表示



臓器提供に関する家族の説明希望の有無

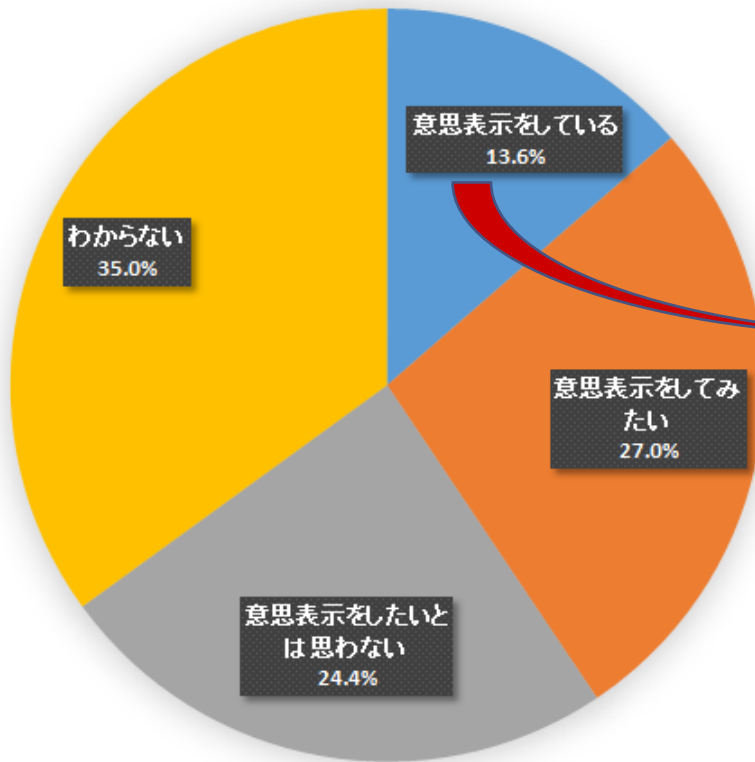


患者の意向と家族が認識する患者の意向

「臓器提供の意思表示に関する意識調査」

2016年 10代～60代の男女3,000人を対象

臓器提供意思表示への対応

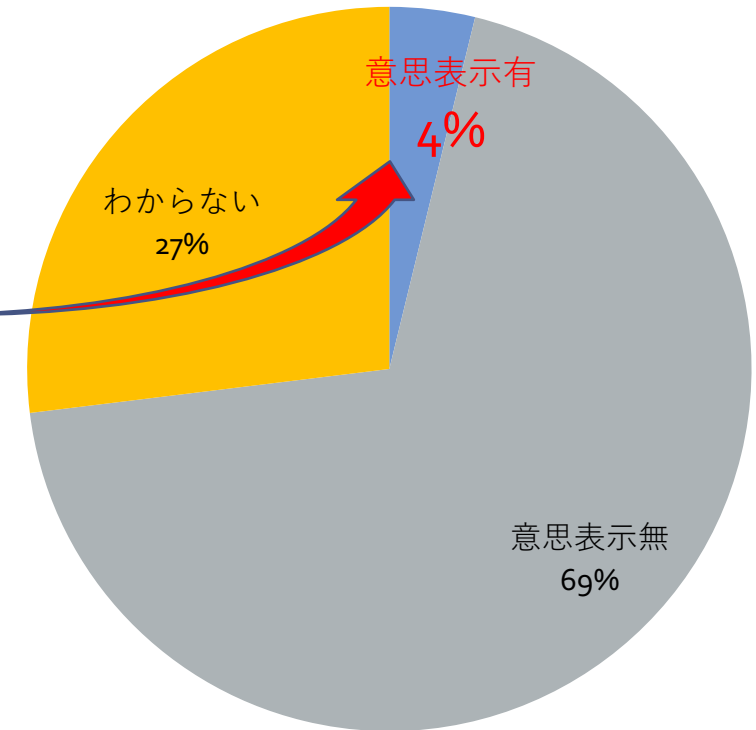


～公益社団法人 日本臓器移植ネットワークより～

「当院の三次救急外来調査票」

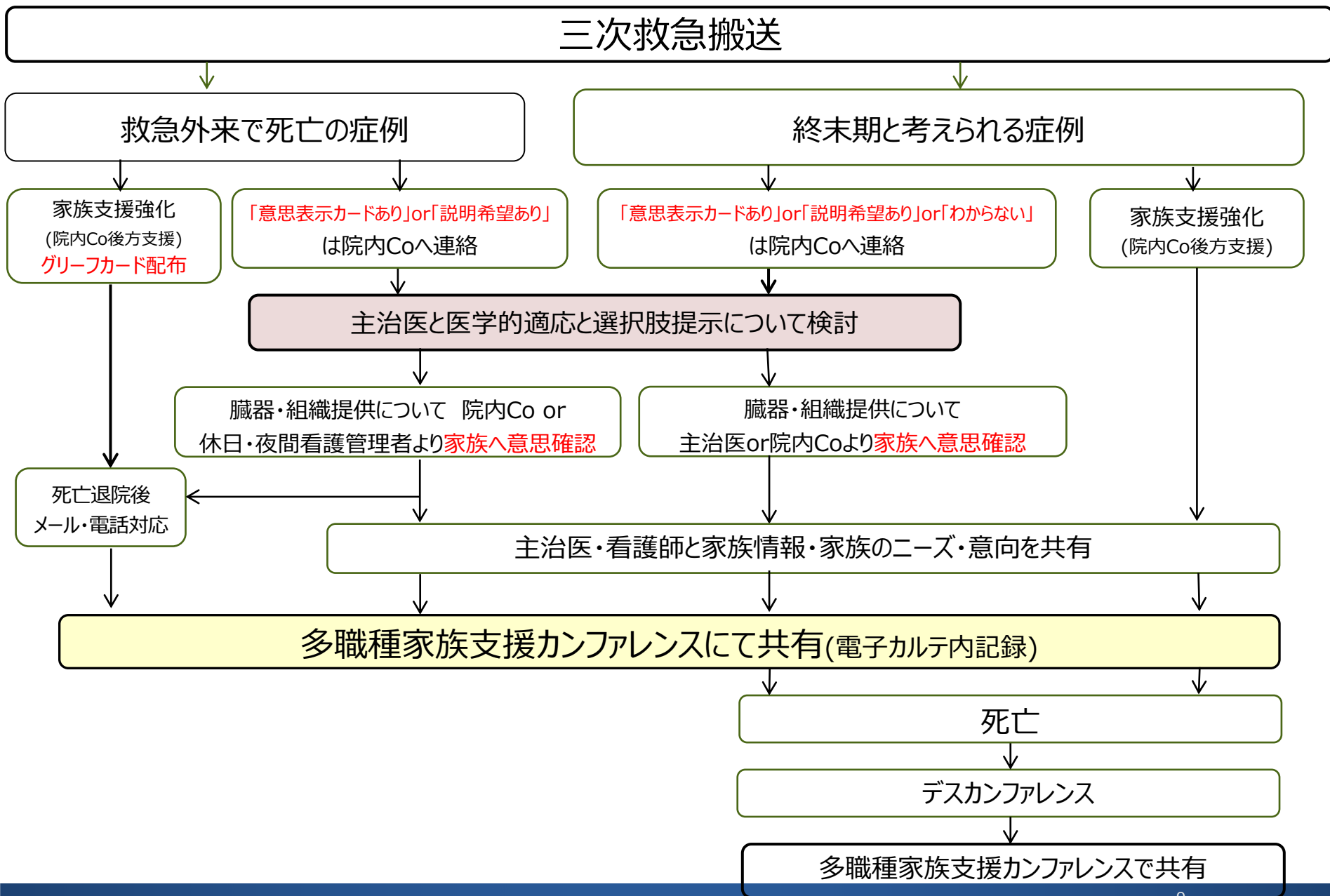
2014.4-2015.3 0代-90代の男女2,093名を対象

家族による本人の意思表示の意向の認識



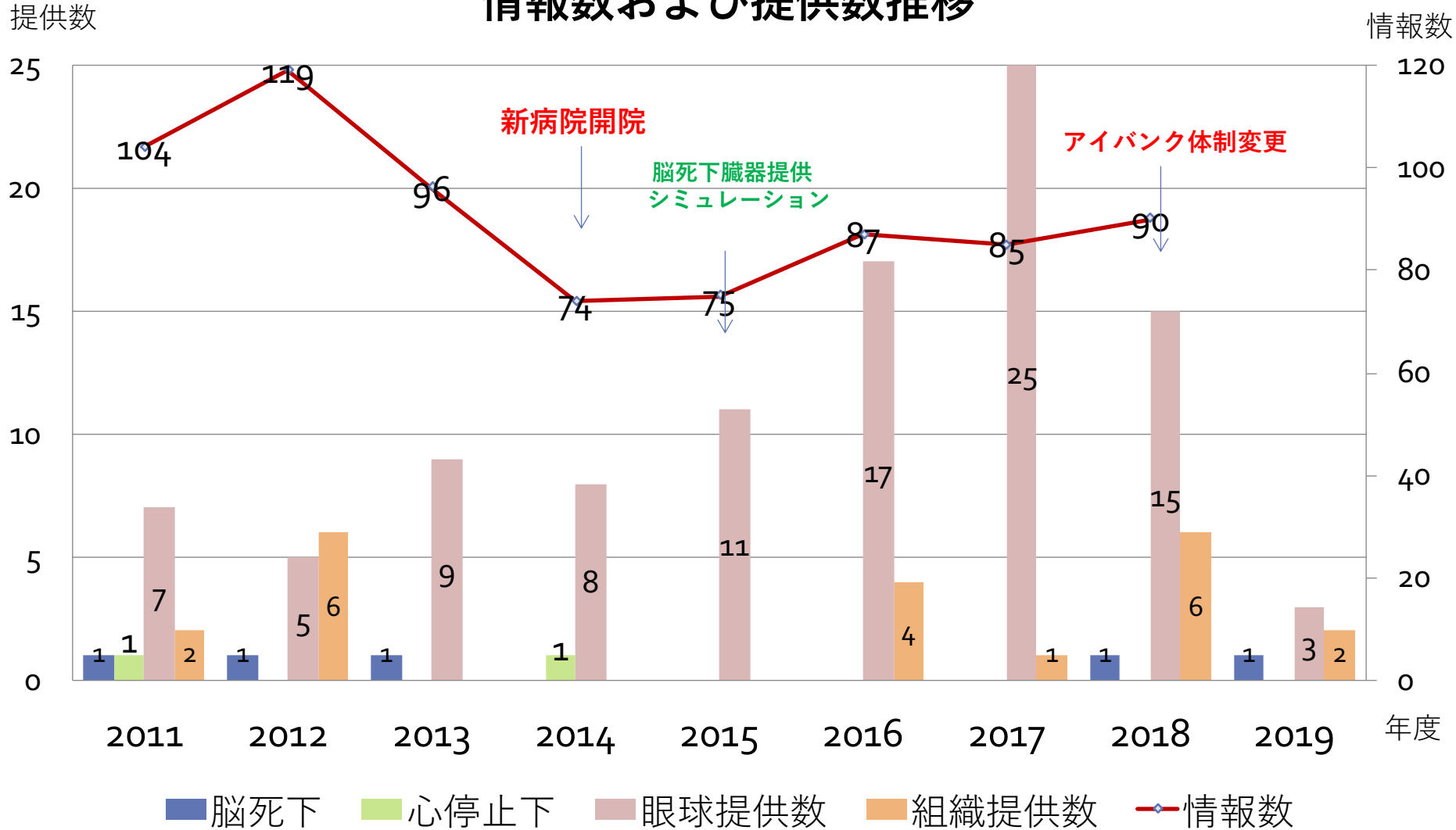
～北里大学病院三次救急来院患者より～

三次救急搬送患者 家族支援と意思確認の実際



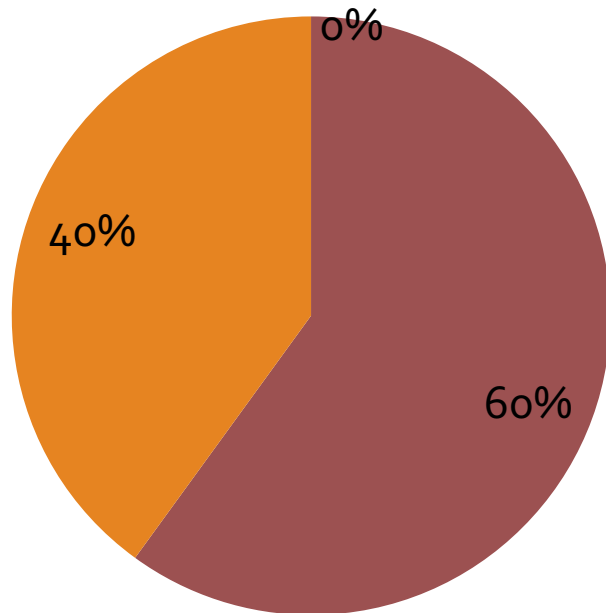
当院の移植医療現状

情報数および提供数推移



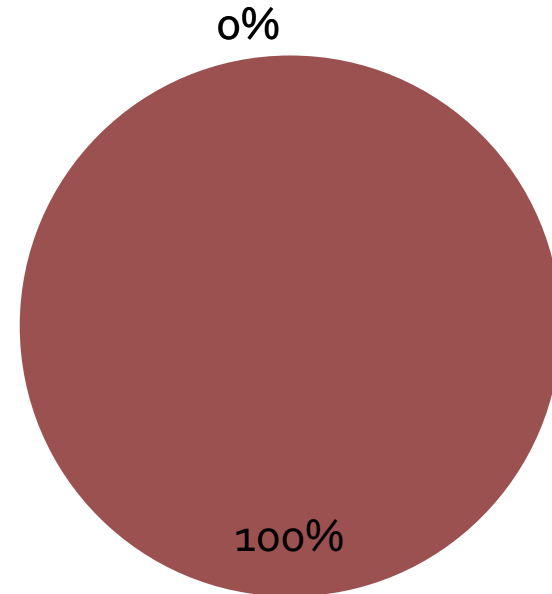
当院で臓器提供された患者家族の意思表示 2011-2019

脳死下臓器提供 N=5



■ 本人意思表示 ■ 家族の意向(調査票) ■ 医療者の提示

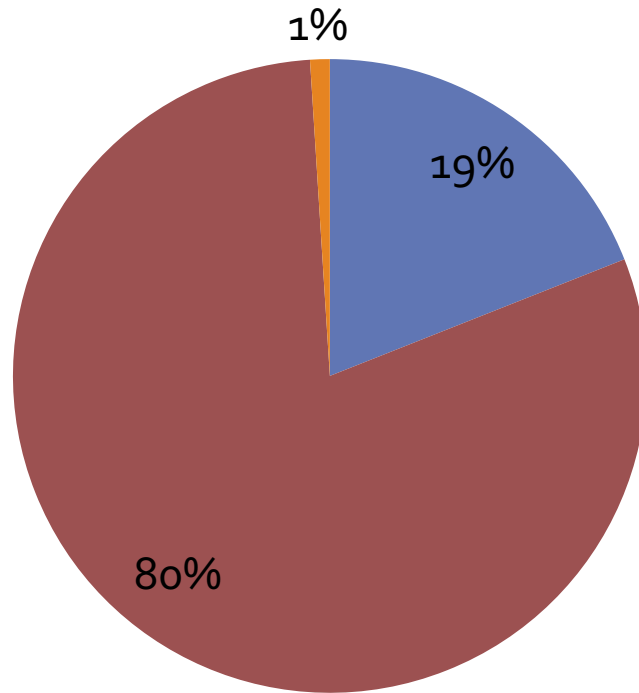
心停止下臓器提供 N=2



■ 本人の意思表示 ■ 家族の意向(調査票) ■ 医療者の提示

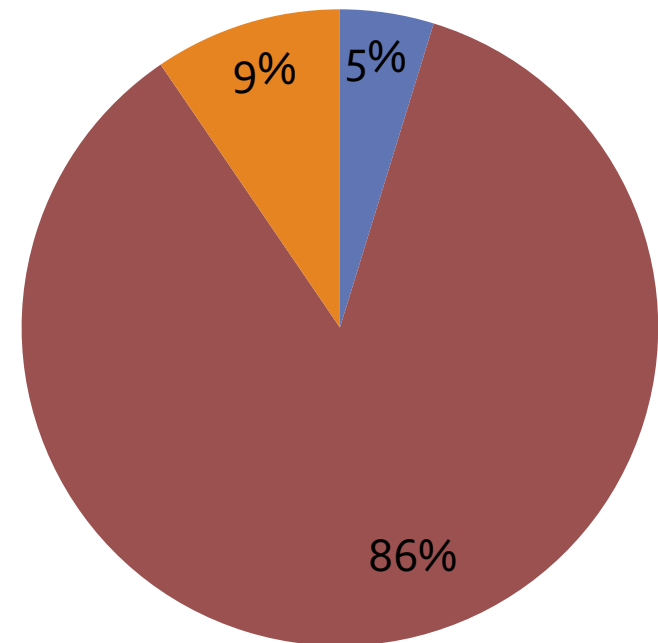
当院で角膜・組織提供された患者家族の意思表示 2011-2019

角膜提供
N=100



■ 本人の意思表示 ■ 家族の意向(調査票) ■ 医療者の提示

組織提供
N=21



■ 本人の意思表示 ■ 家族の意向(調査票) ■ 医療者の提示

患者家族の意向に関するまとめ

- 移植医療について脳死においても心停止においても提供をしてよいと考えている国民は多いものの、意思表示には至っていない
- 本人が意思表示をしていても、家族が認識していることは少ない
- 救急医療の現場で家族が本人の意思表示に思い至ることは少ない



- 臓器提供について本人の意向および家族の意向を確認することは必要である

調査票運用におけるまとめ

- 三次救急外来調査票は、事務手続き時に十分な説明のもとに実施することで患者家族とのトラブルはなく運用が可能である
- 臓器提供に関する医療者の思いは多様であるが、調査票の意向を多職種で共有することで、患者家族の意思尊重が望める
- 調査票の意向を事前に把握することで、医療者は心的負荷が少なく家族への説明時に意思確認ができる
- 調査票記入により家族が臓器提供の意向を思い出すきっかけとなっている症例が散見された